

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100726		
法人名	有限会社 すまいる		
事業所名	グループホームいろは		
所在地	大分市賀来2090番地1		
自己評価作成日	令和4年3月5日	評価結果市町村受理日	令和4年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail/2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490100726-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail/2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490100726-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府番館 1F
訪問調査日	令和4年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者がゆっくりと過ごして頂ける家庭的な施設である。                  駅がすぐそばにあり、市内中心部へのアクセスもしやすい場所にある。                  自然豊かな環境にも恵まれている。                  特殊浴槽も設置しており、ADLが低下した入居者も安心してゆっくり入浴できる。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ感染症の終息が見えない現状にありますが、職員は利用者一人ひとりの生活ペースを大切にしたいと心掛け、日々のケアに努めています。外出支援をはじめこれまでのような取り組みが難しい中、レクリエーションや趣味の継続等ホーム内で出来る楽しみ事にアイデアを出し合っており、地域との関わりにおいて事業所駐車場や地域交流スペース(会議室)を災害時の避難場所として地域に開放、また認知症や介護について地域の方から相談を受ける等良好な地域関係を構築しています。事業所避難訓練では外部の防災対策の専門家に指揮・指導を受けて訓練を行い、自分達では気付かない部分や不明な点等をアドバイス頂き必要な災害対策を行っています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に貼ったり、職員の名札の裏に印刷するなどして、普段から意識できるようにしている。ミーティングでもケアについて話し合い、共有して実践につなげている。	法人理念は、目につく所に掲示し、パンフレットにはケア方針とともに分かりやすい表現で法人の目指すことを記載しています。法人理念の実現に向けてユニット会議で説明し、共有するとともに、名札の裏に記載され日々の支援に活かせるようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が利用できる地域交流スペースを設置している。地域のお祭りへの協賛や参加など、地域との交流を大切にしている。	開所時より1階地域交流スペースを開放し、会議等に利用され交流を図っています。災害時には駐車場スペースを避難場所として提供し、交流・地域貢献にも繋がり、お互い協力関係を構築しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護や認知症についての相談はいつでもお受けするようにしている。また、地域ネットワーク等の集まりにも積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議には、市役所職員、地域包括支援センター代表、家族代表、自治会長、民生委員、職員代表が出席している。話し合いで出た意見などを反映し、サービス向上に活かしている。	運営推進会議はコロナ禍により自粛しており、書面開催としています。各メンバーに議題と資料を送付し、意見を収集したうえで、事業所のコメントを記入した議事録をそれぞれのメンバーに配布しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や研修会などでケアサービスの取り組み等について意見交換しながら協力関係を築いている。	月1回程度は市の担当者とは話す機会を持ち、書類提出や相談、運営推進会議の議事録を持参し情報提供や意見交換を行い、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実施している。もし、必要な場合も、医師の指導の下、ご家族に説明し、同意して頂いてからでないと行わないよう徹底している。	管理者及び職員は身体拘束廃止、虐待防止について年2回以上の研修と、毎月の会議後に事例検討を行い、身体拘束等の内容とその弊害を認識し、見守りを中心にしたケアの実践に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングでは度々議題に上げている。虐待しない、見過ごさないように注意を払うよう徹底し、防止に努めている。		

自己評価及び外部評価結果、GHいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解できるよう、情報に耳を傾け、活用が必要である場合には支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を入居者やご家族に十分行い、不安や疑問点がある場合も丁寧にお答えし、納得して同意を頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族からの意見、要望などを職員間だけでなく、運営推進会議などで意見交換し、運営に反映させている。	利用者からの要望は日々の関わりの中で聞き、職員と検討の上、柔軟に対応しています。家族の意見・要望は面会時や電話等で把握しサービスに反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで運営に関することについても意見交換し、反映させている。	ミーティングや申し送り、個別面談の際に意見や要望を聞いて柔軟に対応を行っています。業務分担や勤務シフトの希望を聞き、働きやすい環境を作っています。また、意見等出しやすい雰囲気を作ることで管理者のリーダーシップを発揮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休日や希望する時間帯での勤務を反映できるよう努めている。勤続年数、勤務態度などに応じて毎年昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などには積極的に参加させている。研修で学んだことを日々のケアやミーティングでバックアップし、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や交流会などに積極的に参加して、他の施設の取り組みなどについて意見交換し、サービス向上に役立てている。		

自己評価及び外部評価結果、GHいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に好きなことや趣味、困っていることや不安なことをヒアリングし、入居者が安心できるための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、入居時などにご家族が困っていることや要望などをヒアリングし、解決に向けて一緒に取り組んでいくことで信頼して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族が必要としている支援を見極め、その方に合った提案をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事など、入居者ができる範囲で手伝って頂くようにしている。一緒に行くことで教えられることも多く、お互いに支えあっていることを実感できる場面となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族参加のイベントなどを通じてより良い家族関係の構築に努めている。ケアで問題が発生した場合、ホーム内だけで解決するのではなく、ご家族の意見も取り入れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの場所などを聞き出してお連れしたり、馴染みの方々が集まる機会に参加できるよう支援に努めている。	入所時のアセスメントで生活歴を記入して頂き、馴染みの関係において情報を把握しており、支援に繋げています。現在はコロナ禍により外出・面会は自粛していますが年賀状の交換・電話で話す等継続支援に繋げています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、関係がより良くなるよう努めている。ホールでの座る位置を変えたり、会話が楽しくなるように職員が間に入ったりすることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にはできるだけ詳細な情報を提供し、相談などあれば対応、支援に努めている。		

自己評価及び外部評価結果、GHいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが、どう暮らしていきたいか把握しよう努めている。ご家族からも情報を頂き、反映しよう努めている。	毎日の申し送りを通じて、利用者の言動や様子・職員の気付きをケアに繋げています。職員も利用者一人ひとりの思いや希望・意向の把握に意識して取り組み職員間で情報共有に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者やご家族からこれまでの暮らしなどをお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子を観察し、ミーティング等で情報交換し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には入居者、ご家族の意見や要望を聞き、ミーティング等で意見交換し、作成している。短期目標に沿ってモニタリングし、見直している。	利用者・家族・医療関係者・職員間の合意形成を図りながら6ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っています。計画の中には、身体状態の側面だけでなく、思いを把握した内容になっており、月1回のミーティング時にサービスが提供できているか、確認と評価を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子は介護記録や情報交換ノート、ミーティングなどで共有しており、ケアプラン作成時にも参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な怪我や体調不良時には病院にお連れしている。各種申請手続き等もできる範囲で代行している。		

自己評価及び外部評価結果、GHいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や研修会、地域ネットワークなどで地域資源を把握し、安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診がある。往診時に相談したり、必要な場合は検査指示して頂いたりしている。訪問歯科や訪問看護も利用している。	これまでのかかりつけ医を入所後も継続される方や、本人・家族の同意のもと事業所の協力医に変更された方もいます。定期的な往診や歯科・訪問看護の利用で医療との連携が図られ、利用者・家族の希望に沿った支援となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士が職場内の看護師、訪問看護師等と相談や情報交換を行いながら協力して入居者を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合にはご家族や病院関係者との情報交換をしている。入院中の経過等も情報交換し、退院時の受け入れ準備もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のケアについては早めに入居者、ご家族の意向を確認するなど、話し合いをしている。実際にその時期になったときには体調の変化の度に話し合いを重ね、支援に取り組んでいる。	入所時に、重度化や終末期について事業所が対応できる事を説明しています。状態の変化に応じ医療・家族・職員と話し合いの機会を重ね、家族の納得した支援へと繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、現場にも貼っている。ミーティング等でも緊急時の対応について話し合っており、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、災害時に備えている。倉庫に食料などを備蓄したり、寝具類も余分に用意している。	年2回、防災訓練を実施しています。訓練には外部の防災担当の方が来て、指揮・指導・訓練を行っています。地域防災訓練の参加、災害時駐車場や事業所の地域交流スペースを避難場所として提供、外部よりキャンピングカーの提供もあり地域との協力体制を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、声かけやオムツ交換など誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	一人ひとりのの人格を尊重し、人生の先輩として尊敬の念を常に持ち支援しています。特に入浴時や排泄時、誇りやプライバシーを損ねない配慮に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが希望したことなどを実行できるよう努めている。すぐには実行できないこともミーティングで計画するなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務中心でなく、入居者一人ひとりの生活リズムを尊重するよう心掛けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えのときに一緒に選んだり、散髪の際に一人ひとりの希望する髪型を聞いてお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の栄養バランスを考え、メニュー作りを委託している。イベントの際は入居者さんの希望をお聞きしてイベントメニューを考え、提供している。	メニュー作りや食材は、外部に委託していますが調理やご飯・みそ汁は事業所で作られています。イベントメニューやおやつは、利用者の希望を伺い事業所で利用者と一緒に手作りして、食事を楽しんで頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量に気を配っている。一人ひとりの健康状態にも十分注意して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、訪問歯科による専門的な口腔ケアやアドバイスなど、口腔内が清潔に保てるよう支援している。		

自己評価及び外部評価結果、GHいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導やオムツ交換などしている。なるべくトイレで排泄できるように自立に向けた取り組みをしている。	半数以上の利用者が、自立や半自立となっています。排泄パターンや習慣を把握して、声掛けによりトイレ誘導を行っています。出来るだけトイレでの排泄を促し、自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が原因で発熱や不穏行動など、日常生活に影響が出ることは理解している。水分補給を促したり、散歩や体操などで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の楽しさを忘れてしまわないために、入浴日には様々な方法で誘導し、皆さん入浴して頂けるよう努めている。特殊浴槽の設備があるので、ADLが低下した入居者も入浴を楽しんで頂ける。	週2回の入浴日を基準に、個々の希望に沿った入浴支援を行っています。特殊浴槽の設備があり、車椅子の方も安心してゆったりと入浴できるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて日中の活動を促し、夜間ゆっくり眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服薬している薬について理解できるよう情報をファイルしたり、訪問薬剤師の説明を受けたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や食器の片付け、掃除や洗濯の手伝いなど、できることは一緒に行っている。何か役割を持つことにより、いきいきとした表情が見られる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や外気浴などを行っている。職員とドライブや買い物に出掛けたり、ご家族と外食や外泊に出掛けたりもしている。	事業所周辺の散歩やバルコニーに出での外気浴など、利用者同士の会話を通じ気分転換を図っています。コロナ禍での外出は困難ではありますが、家族との面会をバルコニーからしたり、今できる事を支援しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に多額の金銭は持ち込まないよう、ご家族にお願いしているが、買い物に出掛けたときなどは好きなものを選んで買い物を楽しんで頂き、施設が立て替えて支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話したり、友人に手紙を出したりできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるように照明や空調などに配慮し、季節に応じて模様替えをしたり、入居者の写真や作品を飾るなど工夫している。	居心地よい共用空間となるよう、照明や音・温度等に配慮が見られます。利用者と職員が共同で作成された季節の作品が飾られ、四季を感じられるようになっていきます。ホール内の机・椅子・ソファ等、利用者の安全を考慮した配置がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりがホールで思い思いに過ごして頂けるような居場所の工夫をしている。テーブルやソファの配置などもミーティング等で話し合っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具を置いたり、写真、作品などを飾ったりするなど居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	これまでと変わりなく、落ち着いて居心地よく過ごせる工夫がされています。ADL(日常生活動作)の変化により家具等の配置替えを行い、動線の安全を確保しています。プライバシー確保に努め、居室でゆっくり居心地よく過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで要所に手すりも設置しており、一人ひとりが安全に生活や歩行訓練などができる環境をつくっている。		